

第 1 章 入間市の概要

第1章 入間市の概要

1. 市の概要

面 積	44.69 k m ² 〔東西幅 9.3 k m 南北幅 9.8 k m 海拔最高点 203.5 m 最低点 58.3 m〕
人 口	総人口 143,696 人 (2024 年 11 月 1 日現在) 世帯数 68,640 世帯 (")
	昼間人口 128,520 人 (2020 年国勢調査データ) 流入人口 24,963 人 流出人口 41,151 人 昼夜間人口比率 88.8 %
	転入人口 5,491 人 (2024 年) 転出人口 5,480 人 (")
鉄 道	【鉄道路線及び駅数】 西武池袋線 4 駅 (武蔵藤沢駅・入間市駅・仏子駅・元加治駅) ※なお、市境にある稲荷山公園駅も市民は利用している。 J R 八高線 1 駅 (金子駅)
道 路	首都圏中央連絡自動車道 1 路線 国道 4 路線 (16 号・299 号・407 号・463 号) 県道 9 路線 市道 4,638 路線

埼玉県南西部に位置する入間市は、都心から 40 k m 圏にあり、東は所沢市、西は飯能市と東京都青梅市、南は東京都西多摩郡瑞穂町、北は狭山市にそれぞれ接しています。

市域全体は、海拔 60 m から 200 m のややなだらかな起伏のある台地と丘陵からなり、市南東端と北西端には、それぞれ狭山丘陵と加治丘陵があり、市域の約 10 分の 1 を占める茶畑とともに緑の景観を保っています。市の北西部には荒川の主流である入間川が流れ、中央部に霞川、南部に不老川がそれぞれ東西に流れています。また市の北東部には、狭山市・入間市域にまたがって航空自衛隊入間基地があります。

鉄道では、西武池袋線の入間市駅・武蔵藤沢駅・仏子駅・元加治駅と J R 八高線の金子駅があり、主要道路では一般国道 16 号をはじめ 299 号・407 号・463 号の 4 路線と県道 9 路線があります。さらに平成 8 (1996) 年に首都圏中央連絡自動車道が開通し、入間インターチェンジが国道 16 号と接続したことで、広域的機能を高めた交通網が形成されています。

主な産業のうち、農業では生産量・栽培面積量ともに県下最大の狭山茶の産地ですが、サトイモや露地物野菜類の生産も盛んです。工業では、伝統ある繊維産業をはじめ、昭和 40 年代からの工業団地造成等による電気、機械工業を中心とした幅広い分野があり、近年は先端技術産業など付加価値の高い業種の企業も増えつつあります。商業では、平成以降入間市駅周辺が整備され、中心市

街地の商業的な核として位置付けられています。さらに、近年は郊外型大規模店舗の出店が多く、平成 20(2008)年に圏央道入間インターチェンジ近くにオープンした大型アウトレットモールには、広域から多くの来場者が集まり、新たな入間市の顔にもなっています。

近隣市である所沢市、飯能市、狭山市とは平成2年から「埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）」の協定を結んでおり、公共施設の相互利用やイベントの共同開催など、さまざまな面で連携を図っていることも大きな特徴です。さらに、平成31（2019）年4月1日に同協議会に日高市が加入したことに伴い、日高市の公共施設の一部も相互利用の対象となりました。現在は令和3年度からの「第3次埼玉県西部地域まちづくり構想・計画」に基づき、圏域の魅力向上・地域課題の解決に向けて5市で連携し取り組みを進めています。

将来都市像として「香り豊かな緑の文化都市」を掲げ、首都圏にあって変化に富んだ自然と、それに育まれた伝統文化と、新しい文化の融合によるコミュニティが年々広がっているのが入間市の特色とすることができます。

図表 入間市と周辺市



2. 市の沿革

江戸時代、現在の市域は天領、藩領、旗本領と支配が入り混じっていたものの、経済活動は活発化していました。特に、江戸時代末期の扇町屋には穀物市や木綿市が立ち、地域経済の拠点として栄えました。

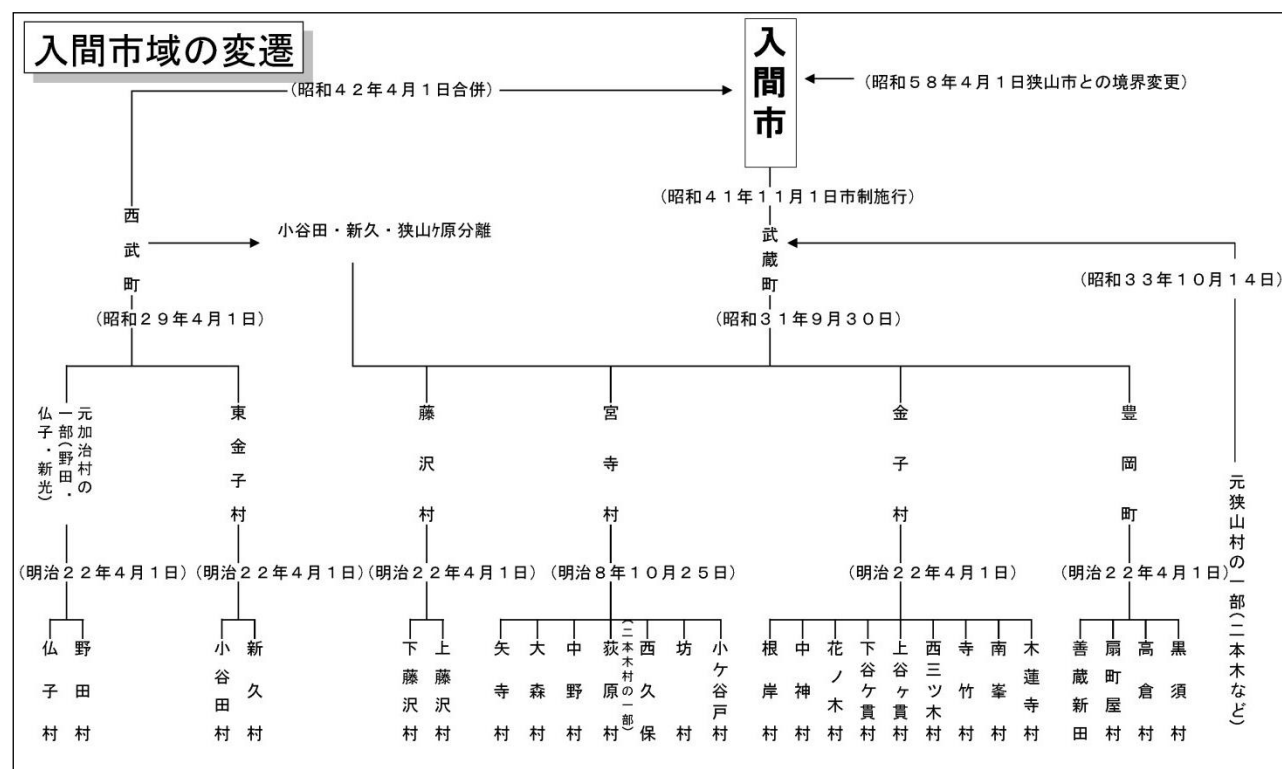
明治時代に入ると、現在の入間市の原型となる町村（豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村、東金子村、元加治村、元狭山村）が成立しました。また製糸、織物など繊維工業のめざましい発展があり、狭山茶業が盛んになったのもこの時代でした。

第2次大戦後、町村合併が促進され、昭和31（1956）年9月30日、豊岡町、金子村、宮寺村、藤沢村及び西武町の一部（旧東金子村）が合併し、武蔵町が誕生しました。その後、昭和33（1958）年10月には元狭山村の一部が合併し、昭和41（1966）年11月1日、埼玉県で25番目の市として「入間市」が誕生しました。さらに、昭和42（1967）4月1日、西武町との合併により、現在の市域が構成されることとなり、首都圏近郊都市としての行政基盤が確立されました。

ただし、成立当時の入間市においては求心力のある中心市街地と呼べるような地区がなかったため、合併前の旧町村においては、しばらくの間は周辺地域との交流が盛んで、市としての一体感を持つことが大きな課題となっていました。

現在は、生活圏域を日常生活や子ども、保護者の活動範囲として9つに分類しており、この基準を軸に公共施設の再整備等を進めています。

図表 市の沿革



出典：入間市統計書 令和5年版